

## 会 議 録

会議名	令和2年度 第2回相模原市障害者自立支援協議会		
事務局 (担当課)	相模原市社会福祉事業団 障害者支援センター松が丘園 電話 042-758-2121		
開催日時	令和2年10月23日(金) 午前10時～12時		
開催場所	Teamsを活用したオンライン会議		
出席者	委員	出席 14人 欠席 4人	
	その他	人材育成部会長 権利擁護・虐待防止検討部会長 地域包括ケア推進課 3名	
	事務局	高齢・障害者福祉課 2人 社会福祉事業団：生活相談課長 他2人	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由	/		
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 各部会報告 (2) 「共にささえあい生きる社会さがみはら障害者プラン」の改定について (3) 日中サービス支援型指定共同生活援助に係る運営状況の報告・評価について (4) 「相模原市社協コミュニティーソーシャルワーカー実践報告」 (5) 基幹相談支援センター及び障害者相談支援キーステーションに関する報告 (6) その他 3 事務連絡 4 閉会		

令和2年度 第2回相模原市障害者自立支援協会委員名簿及び出欠状況

No	区 分	所属・職	氏 名	出欠
1	障害者等関係団体	相模原市障害福祉事業所協会 会長 (やまびこ工房 施設長)	なかじま ひろゆき 中島 博幸	欠
2		相模原市障害福祉事業所協会 総務 (社会福祉法人らっく)	すずき すみえ 鈴木 純恵	出
3		相模原市障害福祉事業所協会 総務 (くりのみ学園 施設長)	いまい やすのり 今井 康雅	出
4		相模原市障害者地域作業所等連絡協議会 会長	にしむら さぶろう 西村 三郎	欠
5		(福)相模原市社会福祉協議会 福祉推進課長	たどころ まさし 田所 雅	出
6		相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事	きたがわ はるえ 北川 春恵	出
7	指定相談支援事業者	橋本障害者地域活動支援センター ぷらすかわせみ 施設長	なかたに まさよ 中谷 正代	出
8		子ども相談支援リボン (NPO法人ワンダートンネル理事長)	ちや ふみこ 千谷 史子	出
9	障害者等及び その家族	(特非) 相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 副会長	ほねだ ひさし 羽田 彌	出
10		(特非) 相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	かたおか かよこ 片岡 加代子	欠
11		(特非) 相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	まつばら みちこ 松原 充子	出
12	保健・医療関係者	相模原市医療ソーシャルワーカーの会 (北里大学病院トータルサポートセンター ソーシャル ワーカー)	だいなか たく 提中 拓	出
13	教育関係機関の職員	神奈川県立相模原中央支援学校 総括教諭	みもり よしのり 三森 吉徳	出
14		教育局学校教育部学校教育課長	しのはら まこと 篠原 真	欠
15	関係行政機関の職員	健康福祉局地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課長	さくらい としろう 櫻井 敏朗	出
16		健康福祉局地域包括ケア推進部 精神保健福祉課長	すずき まさふみ 鈴木 雅文	出
17		こども・若者未来局陽光園所長	みやの けんいち 宮野 賢一	出
18	学識経験者	田園調布学園大学 教授	むらい ゆういち 村井 祐一	出

人材育成部会長	県央福祉会	えびさわ ゆうじ 海老沢 祐次	出
権利擁護・虐待防止検討部会長	らっく相談支援事業所	わたなべ ふみあき 渡邊 史朗	出

# 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

## 1 開 会

傍聴希望者なし

※傍聴席として相模原市職員会館 4階会議室 1 に傍聴用のパソコンを設置

新任委員（櫻井委員、宮野委員）の紹介

会長より挨拶

## 2 議 題

### (1) 各部会報告

主な質疑応答については次のとおり（○：委員、◎：会長）

#### ア 区課題検討会

会議録を基に活動報告があった。

※緑区は緑区課題検討会部会長、中央区及び南区は事務局より報告

◎ 地域特性に根差した課題を掘り起こし、各区ともにワーキンググループを作る等の活動通して機動力が生まれている。活動の中から得られた成果物が広く活用されることに期待が持てる。

#### イ 人材育成部会

人材育成部会部会長より会議録を基に活動報告があった。

◎ 対面で研修が開催できないという厳しい環境の中でも、工夫し、活動している様子が分かった。この部会の活動がまさに“我が事丸ごと”を具現化しているように思えた。官民協働を目指した研修企画のため、お互いの状況の正確な把握が重要になる。現在使用している Teams だけでなく、意見交換においてはチャット機能を有する外部ツールを利用することも良い方法であると考えます。

#### ウ 権利擁護・虐待防止検討部会

権利擁護・虐待防止検討部会長より会議録を基に活動報告があった。

○ 「～一人ひとりの未来をつくる～生活支援プランMap（まっぷ）」の活用については、陽光園としても、今後も積極的に周知していきたいと考えている。

◎ 当部会及び人材育成部会はともに研修がテーマとなっており、共通して、最も受講対象としたい相手に研修が届いていないという課題を掲げている。研修を通して、受講者間や講師と受講者間当に新しいコミュニティが生まれることを期待する。

#### エ 地域課題調整部会

地域課題調整部会長より資料を基に活動報告があった。

◎ KJ法を用いて部会内委員の意見を構造化したことは画期的であり、課題の枠組みが整理されたと思う。この方法で視覚化したことで、次のステップとして、相反関係、因果関係及び重要な課題を見つけることもできる。整理した現状や課題は「共にささえあい生きる社会さがみはら障害者プラン」等の策定や施策にも生きてくるのではないか。

(2)「共にささえあい生きる社会さがみはら障害者プラン」(以下、「障害者プラン」とする。)の改定について

地域包括ケア推進課より報告があった。

・障害者プランは『第3期相模原市障害者計画』『第5期相模原市障害福祉計画』及び『第1期相模原市障害児福祉計画』の3つの法定計画を一体的に策定している。今回の改定では、そのうち障害福祉計画及び障害児計画を新たに策定する。

追加資料（相模原市障害者自立支援協議会からのご意見と回答）を基に、委員より事前に寄せられた意見に対する回答の説明があった。

・今回寄せられた意見の視点として、①入所施設の在り方、②地域移行のための取組、③相談支援体制、が挙げられる。各部会の活動報告を聞き、自立支援協議会の取組が障害福祉計画等の成果目標にとっても関連していると思った。今後も自立支援協議会と連携しながら、各取組を進めていきたい。

(3) 日中サービス支援型指定共同生活援助に係る運営状況の報告・評価について

福祉基盤課より資料（地域生活支援の中核的な役割を担う日中サービス支援型グループホームの創設）を基に説明があった。

・昨年度の全体会議では2事業所の評価を行った。当該事業所については、委員の方からの意見が、その後どのように反映されたかの報告を書面でもらうことになっている。また、昨年度日中サービス支援型として指定・類型変更した2事業所が新たに評価対象に加わる。評価の視点は昨年度と同様、地域との交流活動、余暇活動の実施、重度の障害者に対して日中の活動を含めた適切な対応の確認、短期入所の受け入れに対しての実績や評価をいただく。また、昨年度の反省点を踏まえ、日中サービス支援型の役割である、地域移行の受け皿としての機能を果たしているかについて、焦点が当たるよう、評価対象の事業所に準備いただく。

(4) 「相模原市社協コミュニティーソーシャルワーカー実践報告」

田所委員より資料（「相模原市社協コミュニティーソーシャルワーカー実践報告」）を基に報告があった。

- 県社会福祉協議会（以下、県社協）が行っているかながわライフサポート事業にもコミュニティーソーシャルワーカーがいるが、連携はできるのか。
- 県社協はエリア制でない。ケースによって所属間で連携はあるが、連携なく各々で終結する場合もある。市社会福祉協議会は地区担当制であるため、その強みを活かして活動していきたい。

(5) 基幹相談支援センター及び障害者相談支援キーステーションに関する報告資料（障害者相談支援キーステーション事業報告抜粋令和元年度）

を基に事務局より活動報告があった。

(6) その他

3 事務連絡

次回 令和3年2月12日(金) 午前10時～  
オンライン会議での開催予定を案内した。

4 閉 会

以 上